

会 議 要 旨

会議の名称	令和8年度川越市産業振興審議会		
開催日時	令和8年7月30日（木） 午後2時00分 開会 ・ 午後3時20分 閉会		
開催場所	4 A会議室		
議長（会長） 氏名	会長 新津 重幸		
出席者（委員） 氏名	副会長 小谷野 和博 委員 久米 勉 委員 大原 健二 委員 影山 大樹 委員 手島 昌也 委員 深井 亮任 委員 松山 潤 委員 岩澤 嗣夫 委員 金子 洋子 委員 黒澤 努 計11人		
欠席者（委員） 氏名	委員 小谷野 和統 委員 川目 慎介 委員 山中 亨 委員 相田 英一 計4人		
事務局職員 職名・氏名	産業観光部 部長 飯野 英一 副部長兼観光課長 榎本 学 産業振興課長 町田 純一 雇用支援課長 村岡 亮 農政課副参事 佐藤 公彦 産業振興課 副課長 橋本 光司 企業立地推進室長 小沼 伸弘 副主幹 岸 美里 副主幹 那須 寿子 主査 前田 直樹		
傍聴人（人数）	なし		
会議次第	1 開 会 2 委員紹介 3 議 題 (1) 会長及び副会長の選任について (2) 前「川越市産業振興ビジョン」の実績と評価について (3) 第五次川越市産業振興ビジョンの推進事業について 4 そ の 他 5 閉 会		
配布資料	○次第 ○令和8年度川越市産業振興審議会 会議資料 ○川越市産業振興ビジョン推進事業 進捗状況 ○数値目標の進捗状況【令和7年度】 ○第五次川越市産業振興ビジョン【アクションプラン】		

議 事 の 経 過

議事は、会議次第に沿って進行された。

討議の概要は、以下のとおり。

○ 議 題

(1) 会長及び副会長の選任について

事務局から会長及び副会長の選任方法について説明。

[発言内容]

(委 員) 会長に新津委員、副会長に小谷野委員を推薦したい。

(全 員) 異議なし。

[結 論]

- ・会長に新津委員、副会長に小谷野委員を選任する。

(2) 前「川越市産業振興ビジョン」の実績と評価について

事務局から資料に基づいて説明。

なお、資料中、数値目標が未達成となった理由については以下の見解のとおり。

創業支援件数・・・創業者が抱える課題の複雑化に伴い、件数の確保よりも創業後の「定着」や「成長」を見据えた質の高い伴走支援への重点が移ってきていることが影響。

開設事業所数・・・最新値がコロナ禍の影響を強く受けた時期であったことが要因。全国の新設法人動向を踏まえると、今年度の経済センサスでは達成の見込み。

就職率・・・・・・・・有効求人倍率が高い状況下で、就職の可能性を広げるために紹介数を増やした結果、率としては届かなかったもの。

小売業商品販売額・・・最新値がコロナ禍の影響を強く受けた時期であったことに加え、EC サイトの普及等も影響していたものと推察。全国の商業動態統計の推移を鑑みると、今年度の経済センサスでは達成の見込み。

空き店舗数・・・・・・・・新規出店は見られるものの、物価高騰や後継者不足等による廃業が上回ったもの。

ものづくりブランド・・・主要な製品・技術の認定が概ね完了し、申請件数が落ち着いている状況によるもの。

(3) 第五次川越市産業振興ビジョンの推進事業について

事務局から資料に基づいて説明。

[発言内容]

(会 長) 技術革新が進んでおり、DXやAIに対する支援については、継続していつて

いただきたい。

産業分野は就労の確保や物価高騰への対応など、課題もさまざまある。委員それぞれの立場なども踏まえつつ、ご意見を賜りたい。

(委 員) 産業用地がない中で産業を振興していくために、規制緩和をできないだろうか。

フィジカルＡＩの分野においても、ロボタクシーや無人の物流施設作ろうと思っても規制があって思うようにいかない状況である。規制緩和をすることで、社会実験ができるような環境を整備してもよいのではないか。

(会 長) 工業・卸売業などの分野において、自動化・無人化は流通の近代化という面において課題であると認識している。

(委 員) 中小企業が仕入れ先や販売先に値上げを言いづらいという状況であり、価格転嫁ツールを活用していただきたい。

(委 員) 生成ＡＩやチャットＧＰＴの活用においては、会社全体ではなく、個人的に使用している状況である。市として、ＡＩ等を推進するにあたり、事業者への研修などを取組として取り入れてもよいのではないか。

(委 員) 補助金や融資などの様々な施策について、商店街の会員へ伝わりやすい環境づくりを目指していただきたい。

(委 員) 次のことを提案する。

- ・市や商工会議所を中心として、価格転嫁率の調査を行っていただきたい。

- ・Ｍ＆Ａや事業承継について、現在、市は受け身の立場であると感じているので、那須塩原市で実施している民間サービスを活用した積極的なマッチングの例を参考としていただきたい。

- ・川越セレクションやＥ－ＰＲＯなどの川越産品のブランド認定について、マンネリ化を防ぎ、新しい作品を作るきっかけとするために、審査の見直し・強化を行い、例えば２年に一度、「大賞」を決めて市としてＰＲしていく等としてはどうか。

- ・観光について、一番街中央通りのバスが大変危険である。停留所等を含めたオーバーツーリズム対策を行っていただきたい。

- ・バンテアン方面に行く交通手段が少なく、働きたくても通えないという声が上がっている。

- ・市のサイバーセキュリティ対策について、国が実施するＣＹＤＥＲを活用していただきたい。

- ・各推進事業の評価方法について、市の内部評価だけでなく、審議会委員による外部評価と取り入れてはどうか。内部評価と外部評価の比較も可能になると考える。

(委 員) 川越セレクションについては、来年大きく見直す予定である。

観光の観点から、ナイトタイムエコノミーの活性化のため、街バルを復活させ、昨年度は新河岸エリアと中心市街地を繋ぐ取組を実施した。今は南大塚エリアに取り組んでいるが、将来的には、市全体を街バルで繋ぐことで、商店街を含め活性化を図っていきたい。また、川越には古い建物が多く、外国人に人気があるので、民間を活用しながら、宿泊施設等に利活用していただきたい。

加えて、川越で護岸工事が進んでいるが、猛暑対策に水は効果的であるので、ソフト面の開発も必要と考える。

(委 員) 外国人の就労支援をしていく上で、生活環境の違いから、ゴミの問題等が発生しているので、雇用者側も対策を考えなくてはならないと考える。

また、若手の就農者が増えており、いろいろな取組を行っている。そういった活気ある農家を参考に、就労支援や農家の育成を行っていただきたい。

(会 長) 外国人労働者については、日本における生活の部分まで含めて支援していかなければならない。

(委 員) だんだん男女格差が少なくなっていると感じている。女性管理職の比率も伸びてきており、今後も男女共同参画の啓発を継続していきたい。

(委 員) 多様な働き方の推進という観点から、中長期的に人材を確保していくために、働きやすい環境づくりを支援していくことは大変重要であるとする。

(副会長) バンテアン西側の開発について、具体化しないまま何十年と過ぎてきたが、総合計画において土地利用推進箇所として指定していただいているので、これから開発が進むと期待している。

また、川越は農業・工業・商業・観光のバランスが取れた産業構造をしているが、今後の川越の発展を見据えて、先進性を持った新しい産業の創出を図っていく必要があると考える。そのためには、市だけではなく、県や国とも連携して、産業を振興していただきたい。

(会 長) みなさまから各団体における課題や意見を出していただいた。事務局でご検討いただきたい。

○その他

(事務局) 今後のスケジュールについて報告する。

今年度の産業振興審議会は今回1回のみとなる。今後は、本日の会議要旨をまとめたうえで、「数値目標の進捗状況【公表用】」と併せてホームページで公表する予定である。